

## JENESYS2025 ASEAN 同窓生のオンライン訪日プログラムの記録 (テーマ：地域課題と若者の社会参加)

### 1. プログラム概要

#### 【目的・概要】

本プログラムは、JENESYS 事業で訪日経験のある ASEAN 地域の同窓生を対象に、「地域課題と若者の社会参加」をテーマとしたプログラムを通じて、日本への更なる理解促進、ネットワーク強化、同窓生活動の活性化を目的に、2025 年 11 月 25 日から 11 月 29 日の日程で実施しました。

【参加者】ASEAN 諸国の JENESYS 同窓生（2024 年度までの参加者） 合計 13 名  
(内訳) インドネシア 3 名、タイ 2 名、東ティモール 5 名、フィリピン 3 名

【訪問地】東京都 3 名、岩手県 11 名、宮城県 6 名、福島県 5 名

#### 【日程】

このプログラムは、JENESYS2025 ASEAN 同窓生のオンライン訪日プログラム（テーマ：日本語・伝統とポップカルチャー）と一部合同で実施しました。

#### ■ オンライン訪日プログラム：

- |                |   |
|----------------|---|
| 11 月 25 日（火曜日） | 【オリエンテーション・挨拶】<br>【テーマ関連講義】<br>「地域課題と子ども・若者の社会参画、子ども・若者とともに」<br>講師：NPO 法人 miraito 上田 彩果 理事長<br>【参加者間交流】グループ別自己紹介・役割分担確認等  |
| 11 月 26 日（水曜日） | 【学校交流・視察】福島県立ふたば未来学園高等学校<br>生徒による学校紹介、生徒との交流、バーチャル学校ツアー   |
| 11 月 27 日（木曜日） | 【テーマ関連講義・ワークショップ】<br>「地域課題の捉え方：国の指針と地域の意思の実現を両立するには」<br>講師：株式会社 Rurio 代表 小林 雅幸 氏<br>【参加者間交流】  |
| 11 月 28 日（金曜日） | 【文化体験】東京盆踊りの会<br>講義：「盆踊りの起源と歴史、盆踊りの紹介」<br>講師：東京盆踊りの会 盆踊り指導員 永田 天峰 氏<br>体験：「みんなで踊ろう！盆踊り」<br>【交流】日本在住の JENESYS 同窓生との意見交換<br>登壇者：<br>アウン・シー・チョウ 氏 JENESYS2022 参加者（ミャンマー 大学生）<br>ヌードサナート・チャイサヴァン氏 JENESYS2016 参加者（ラオス 大学院生）<br>【ワークショップ】報告会準備（再訪日成果のとりまとめの作成） |
| 11 月 29 日（土曜日） | 【報告会】再訪日成果の発表   |

## 2. 記録写真

### オンライン訪日プログラム

	
<p>11月25日【テーマ関連講義】「地域課題と子ども・若者の社会参画、子ども・若者とともに」</p>	<p>11月26日【学校交流・視察】 福島県立ふたば未来学園高等学校</p>
	
<p>11月27日【テーマ関連講義・ワークショップ】 「地域課題の捉え方：国の指針と地域の意思の実現を両立するには」</p>	<p>11月28日【文化体験】 盆踊り 講義</p>
	
<p>11月28日【文化体験】盆踊り 「みんなで踊ろう」</p>	<p>11月28日【交流】同窓生との意見交換</p>
	
<p>11月29日【報告会】</p>	<p>11月29日【報告会】集合写真</p>

### 3. 参加者から寄せられた質問・関心事項（抜粋）

#### ◆ 【テーマ関連講義・ワークショップ】「地域課題の捉え方：国の指針と地域の意思の実現を両立するには」について

- ・ 本当に素晴らしく、刺激的で実りあるディスカッションでした。東北地方についてもっと知りたい、と心からワクワクするような時間になりました。社会貢献活動に取り組む学生として、将来観光や留学、研究など、どんな目的で日本へ行くにしても、東北は自分にとって「訪れるべき場所」だと強く感じました。関東、中部、中国地方といった有名な地域だけでなく、東北ももっとその魅力を発信していくべきだと思います。

#### ◆ 【文化体験】盆踊り体験について

- ・ 盆踊りは、一つひとつの動きに意味が込められていると知り、本当に素晴らしいと思いました。これは先人たちが私たちに残してくれた貴重な文化遺産ですので、ユネスコの無形文化遺産への登録を申請してみるのはいかがでしょうか。
- ・ 出雲阿国の名前や背景は少し知っていましたが、盆踊りについては今回初めて知ることばかりで、とても新鮮な学びでした。

### 4. 参加者の感想（抜粋）

#### ◆ インドネシア 社会人

このプログラムを通して、日本について、特にこれまで知る機会の少なかった東北地方について知ることができました。

上田彩果氏の若者への深い思いやりは、誰もができることではないので、それを実行しておられる先生は素晴らしい方です。小林雅幸氏は、とても聡明な方で、人の心を揺さぶるのがとても上手です。先生のお陰で今では東北に興味を持つようになりました。

ふたば未来学園高等学校の生徒さんとは、学校のことから個人的な話までさまざまなことを語り合いました。私にとってそれはとても印象深い思い出で、彼らを自分の後輩のように感じています。お二人が将来、立派に成功されることを心から願っています。

盆踊りは、何年も前に偶然知った出雲阿国の話を思い出しました。とても魅力的な経験でした。

#### ◆ タイ 大学院生

上田彩果氏は、地方支援への熱心な取り組みを共有していただき、大変感銘を受けました。生徒たちに向けた活動も非常に創造的で実用的でした。その献身的な姿勢には驚かされ、私も彼女のように行動したいと強く思いました。ぜひ彼女のアイデアを参考に、タイの学生たちのための社会貢献活動を立ち上げたいと思っています。

#### ◆ 東ティモール 大学院生

盆踊りはとても素敵な踊りだと思いました。先祖が私たちに残してくれた文化遺産のようなものです。日本の体験を共有してくれた二人の友人に感謝します。

## 5. 受入れ側の感想（抜粋）

### ◆ 講師

国際交流は、単なる情報提供ではなく、相互理解と信頼の架け橋をつくる大切な機会であると感じました。

### ◆ 協力団体

参加者が多く、盆踊りへの関心の高さを強く感じました。今回のプログラムを契機に、今後も対日理解促進交流プログラムに協力したいです。

### ◆ 交流校生徒

プログラムを終えて、より多くの生徒に国際交流を楽しんでもらいたいと思いました。言語の壁に囚われるのではなく、ゲームやジェスチャーで交流を深めていけたら素敵だなと思います。また、今後自分の探究と絡めた交流の場を持ちたいと思いました。

## 6. 参加者の対外発信（抜粋）、報道記事等

	<p>2025年11月29日（Instagram）</p> <p>タイ 大学生</p> <p>プログラムでは、NPO 法人 miraito の上田彩果氏から、日本のマイノリティの若者が抱える課題や、誰もが安心できる居場所づくりの大切さについて貴重なお話を伺いました。自分たちのコミュニティで相互理解を深め、若者のエンパワーメントを後押しするために何ができるか、改めて考えるきっかけになりました。</p> <p>また、ふたば未来学園高等学校の生徒さんたちとの交流も、とても刺激的でした。生徒の皆さんは、自ら社会課題を見つけ出し、地域に根ざしたクリエイティブな解決策をどのように生み出しているかを共有してくれました。彼らの情熱と先進的な姿勢から若者が生み出す「変革の力」を実感しました。</p> <p>この素晴らしい経験に感謝して、学んだことをこれからの活動にしっかり活かしていきたいと思います。</p>
---	--



**【登壇報告】ASEAN同窓生向けプログラムにて、理事長上田が基調講演を担当しました**

2025年11月25日、ASEAN諸国のJENESYS同窓生50名を対象としたオンライン交流プログラムにて、理事長上田が「地域課題と若者の社会参加」をテーマに基調講演を担当いたしました。

本プログラムは、日本政府が推進する国際交流事業「JENESYS2025」の一環として、日本とアジア・大洋州諸国の将来リーダー層との相互理解を深めることを目的に行われました。

オンラインでの講義は、満座を交えて行われました。上田は自己紹介の後、NPO法人miraitoの活動や、震災ボランティアをきっかけに東北・岩手で活動を始めた経緯を説明しました。そして、岩手町を含む日本の地域課題や、若者がどのように社会参画しているかについて紹介しました。

2025年12月5日（NPO 法人 miraito の note）

【登壇報告】ASEAN 同窓生向けプログラムにて、理事長上田が基調講演を担当しました

2025年11月25日、ASEAN 諸国の JENESYS 同窓生 50 名を対象としたオンライン交流プログラムにて、理事長上田が「地域課題と若者の社会参加」をテーマに基調講演を担当いたしました。

本プログラムは、外務省が推進する人的交流事業「JENESYS」の一環として、日本とアジア・大洋州諸国の将来リーダー層との相互理解を深めることを目的に行われました。

オンラインでの講義は、通訳を交えて行われました。上田は自己紹介の後、NPO 法人 miraito の活動や、震災ボランティアをきっかけに東北・岩手で活動を始めた経緯を説明しました。そして、岩手町を含む日本の地域課題や、若者がどのように社会参画しているかについて紹介しました。

（後略）



2025年12月6日（東京盆踊りの会 Threads）

【ご報告】外務省推進対日理解促進交流プログラムの JENESYS2025 ASEAN 同窓生のオンライン訪日プログラムにおいて、日本の盆踊りについての講義を担当させていただきました。出席者がかなり多く、時間の許す限り質問にも答えました。

**7. 報告会での再訪日成果の発表（抜粋）**

訪問地：東京都、岩手県、宮城県、福島県 全3グループ発表

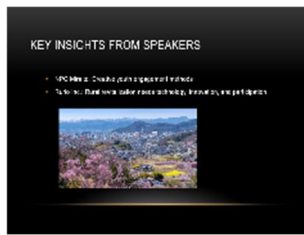
**グループ A**



**【成果の発表】**

東北の社会課題と解決へのアプローチの事例や、複雑化する若者の問題に対する支援活動の講義、高校生との交流プログラム、盆踊りを通じた日本文化体験等がありました。プログラムを通して得た学びと知見を活かし、JENESYS 同窓生としてインドネシア語で記事を執筆したいと考えています。まず、東北の情報を広めるためのプロモーション記事、次に、若年層のメンタル問題への対処法とスキルに関する記事を書きたいと思います。

## グループ B



### 【成果の発表】

このプログラムを通して、日本人は規律正しく、お互いを尊敬し、責任感があり、環境への意識が高いと感じました。地域開発は、コミュニティが主体となり、コミュニティの意志や歴史、文化、誇りを大切にして実施されていました。日本の事例をモデルとして、今後、東ティモールで、地域住民や地域コミュニティが主体となって観光を企画・運営するコミュニティ・ベースド・ツーリズム（CBT）と地域の資産や強みを活かす地域振興アセット・ベースド・コミュニティ・デベロップメント（ABCD）に取り組みたいと考えています。具体的には、農村観光、若者による文化自然ツアー、地域の資産の分析、持続可能な観光商品開発等です。JENESYS 同窓生が協力して、日本・東ティモールの文化交流イベント、ワークショップ、デジタル技術を活用した情報共有などを実施し、若者のグローバルな視野を強化し、地域に根差した開発の推進、日本・東ティモール間の協力の促進を目指します。

実施団体：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）